

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校, 中学校)

第3編 単元(題材)ごとの学習評価について(事例)

【案】

国立教育政策研究所
教育課程研究センター

第1章 「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

1 本編事例における学習評価の進め方について

各教科の単元（題材）における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、以下のように進めることが考えられる。なお、複数の単元（題材）にわたって評価を行う場合など、以下の方法によらない事例もあることに留意する必要がある。

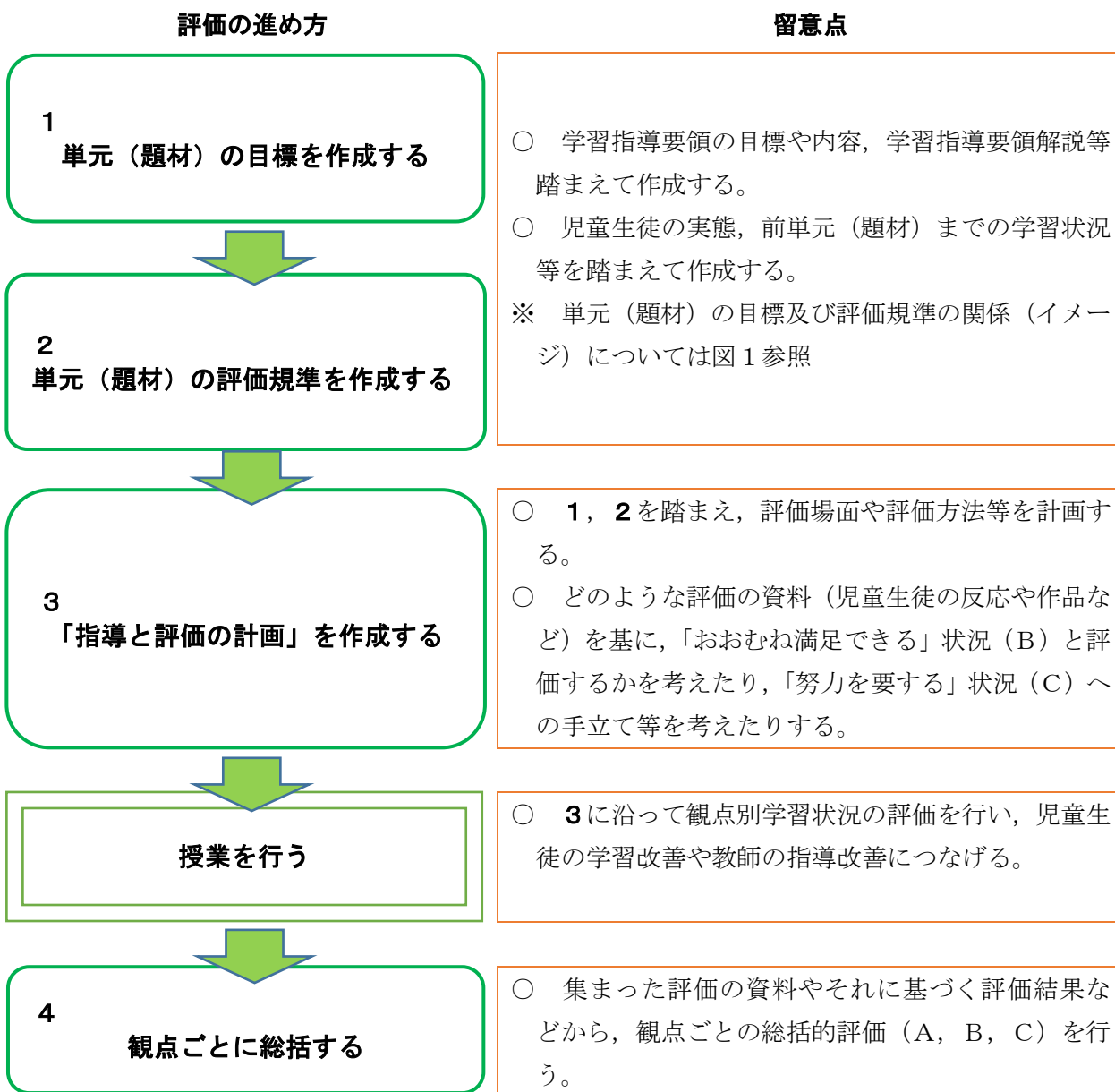
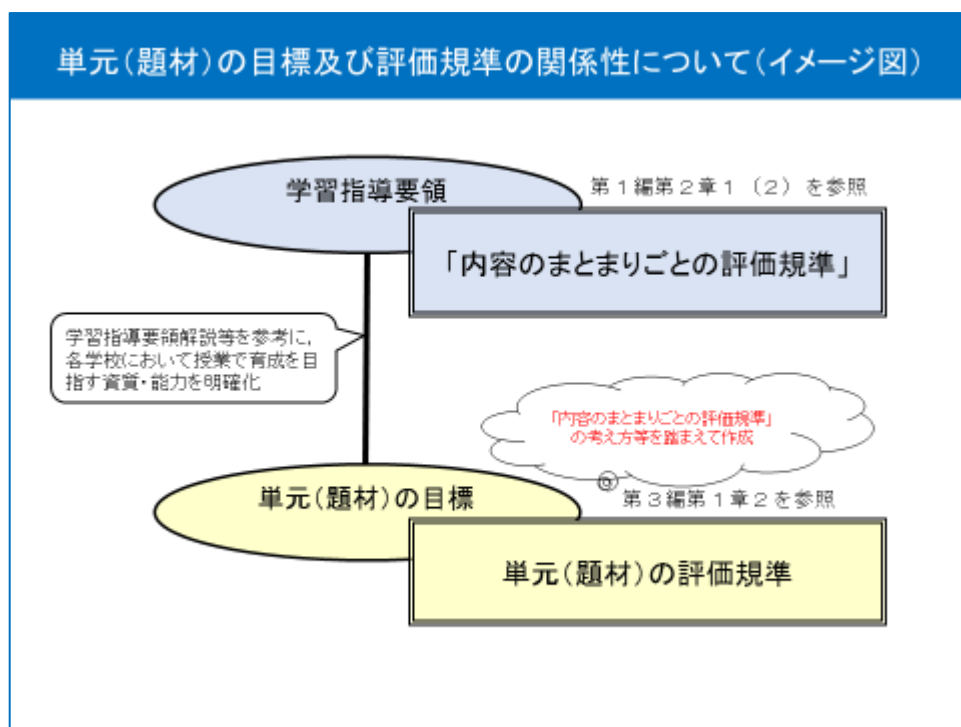


図 1



※ 調整中

体育科（運動領域） 事例 1

キーワード 「指導と評価の計画から評価の総括まで」

単元名

「器械・器具を使つての運動遊び」
（マットを使った運動遊び）

内容のまとめ

第 1 学年及び第 2 学年

B 器械・器具を使つての運動遊び

1. 指導と評価の一体化についての基本的な考え方

(1) 指導する事項を明確にする

児童の実態を踏まえつつ、学習指導要領の趣旨等に基づき、本単元で指導する内容を明確にする。特に、体育科運動領域においては、教科書がないこと等を踏まえ、各学年の指導内容及び指導方法の在り方について、学習指導要領解説体育編はもとより、国や都道府県、市町村等が作成する体育指導の手引きや副読本等を参考に、各学校で十分に吟味し指導することが求められる。

(2) 評価の観点と評価方法を明確にする

指導内容を明確にしたうえで、評価の観点を設定するとともに評価方法を整理する。その際、各時間において指導したことを全て評価することに留意する必要はない。体育科で育成を目指す資質・能力のうち、本単元で重点的に指導し評価する事項を明確化し、設定した評価方法に基づき適切に評価することが大切である。

(3) 評価する機会を設定する

指導する事項のうち、いつ、何を、どのように評価するのかを計画する。計画的に指導したうえで、適切に評価することが求められる。その際、評価のための指導に陥ることのないよう留意することが大切である。評価が先にあるのではなく、まず指導があって、児童の学習の過程や結果の状況と評価基準とを重ね合わせながら、適切に評価する。本時で評価した結果については、次時以降の指導の改善に資するようにすることが大切である。また、指導したことをその時間内に評価するのではなく、引き続き指導する観点から、敢えて指導と評価の時間をずらすことも考えられる。さらに、単元の前半に設定する評価については、その結果をもって単元全体の評価とするのではなく、単元後半につなげる指導のための評価という観点を踏まえ、必要に応じて単元終了時まで指導と評価を繰り返すことが大切である。

2. 指導と評価のための具体的な手順

【手順 1】単元目標を設定する

- ・単元目標は、学習指導要領本文（以下、「本文」と表す）を参考に、設定することができる。
- ・本文に示された内容は、各領域において育成を目指す資質・能力であるため、学習指導要領の趣旨等に基づく指導上の目標と捉えることができる。
- ・単元目標の語尾は、「～することができるようにする」と表記する。

- (1) マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、いろいろな方向に転がったり、手で支えての体の保持や回転をしたりして遊ぶことができるようにする。
- (2) マットを使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
- (3) マットを使った運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、

場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

(ゴシック体は、本文からの引用部分を表す)

【手順2】単元の評価規準に盛り込むべき事項を整理する

- ・単元の評価規準に盛り込むべき事項は、児童の実態等を考慮しつつ、本文をもとに作成することができる。
- ・評価規準の語尾は、「～できる」(技能)、「～している」(知識、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」)、「～しようとしている」(主体的に学習の取り組む態度の「健康・安全」以外)と表記する。

◎単元の評価規準に盛り込むべき事項(マットを使った運動遊びに関する部分を抜粋)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
マットを使った運動遊びの行い方について知っているとともに、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転の動きを身に付けている。	器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。	器械・器具を使つての運動遊びの楽しさに触れることができるよう、運動遊びに進んで取り組もうとしていたり、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、場や器械・器具の安全に気を付けている。

- ・本文をもとに上記のように作成し、さらに具体化する(ゴシック体は上記からの引用部分を表す)。

・マットを使った運動遊びの行い方を知っている。 ・マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がったり、手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりするなどして遊ぶことができる。	・マットを使った簡単な遊び方を選んでいる。 ・友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。	・マットを使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ・順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動しようとしている。 ・場の安全に気を付けている。
--	--	--

- ・「知識・技能」については、知識の評価規準と技能の評価規準に分けて設定する。
- ・「思考・判断・表現」については、「思考・判断」の評価規準と「表現」の評価規準に分けて設定する。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全の各項目に分けて設定する。

【手順3】指導計画を立案する

- ・児童の実態を踏まえ、単元目標の達成に向けた指導計画を作成する。
- ・指導する内容の順序や指導にかけることができる時間等を考慮し、無理のない計画に留意する。

時間	1	2	3	4	5	6
0 ↓ 45	・オリエンテーション ・感覚づくりの運動遊び紹介 ・学習カードの使い方	・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸太転がり 転がり方を組み合わせる。	・腕支持での川跳び ・腕支持での平均台跳び 川跳びからの腕立て横跳び越し	・さかさまになる動き さかさまからのブリッジ	・グループでマットランド ・作ったランドをグループ間で紹介し合う。	・他のグループが作ったランドで楽しむ ・もっと楽しいランドになるよう工夫する。

【手順4】単元の評価規準を作成する

- ・内容のまとまりごとの評価規準と指導計画における児童の活動を考慮し、児童の学びの姿としてより具体化した評価規準を作成する。
- ・各観点とも複数個に細分した評価規準を想定するが、順序性を示すものではないことに留意する。

(1)知識・技能	(2)思考・判断・表現	(3)主体的に学習に取り組む態度
① マットを使った運動遊びの行い方について言ったり、実際に動いてみたりしている。 ② マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。 ③ 手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりして遊ぶことができる。	① 坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることができるような場を選んでいる。 ② 腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを選んでいる。 ③ 友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書き出したりしている。	① 動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ② 順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。 ③ 場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 ④ 場の安全に気を付けている。

【手順5】指導と評価の計画を作成する

- ・単元計画のうち、いつ、どの場面で、何をどのように見取るかの計画を立てる。
- ・指導計画の下に評価の計画を重ね合わせ、指導と評価の計画を作成する。
- ・1時間につき1～2程度の評価観点にするなど、評価をするにあたり無理のない計画を立てる。

時間	1	2	3	4	5	6	
0	オリエンテーション ・学習内容の確認 ・安全の約束の確認 ・場の準備や片付けの仕方の確認 感覚づくりの運動遊びの紹介	場の準備→準備運動（感覚づくりの運動遊び）					
		ころころランド ・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸太転がり	ぴよんぴよんランド ・腕支持での川跳び ・腕支持での平均台跳び	さかさまランド ・跳び箱を使って ・肋木を使って	マットランドで楽しもう グループでマットランドの場を作って楽しむ。 作ったランドをグループ同士で紹介し合って楽しむ。		他のグループが作ったランドで楽しむ。 もっと楽しいランドになるよう工夫する。 動きのバリエーションを楽しむ。
		振り返り→遊びのバリエーションの紹介					
45		転がり方を組み合わせる。	腕立て横跳び越し	さかさまからのブリッジ			
	振り返り→整理運動→片付け						
知※		① 観察	② 観察	③ 観察		②または③ 観察	
思			③ 観察・カード		① 観察・カード	② 観察・カード	
態	④ 観察	③ 観察		① 観察	② 観察		

※ 知…「知識・技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」

【手順6】本時の展開を構想する（例：第2時）

分	●学習内容・活動（・予想される児童の反応）	指導上の留意点（○指導 □支援・配慮 ◆評価規準）
導入 2分	●場の準備をしよう。 ・グループで協力してマットを運ぶ。 ・場の配置図を見ながら、落ち着いて運搬する。	○4人組でマットを運んだり、2人組で踏切板を運んだりできるようにする。 ◆場の準備を友達と一緒にしようとしている。
5分	●感覚づくりの運動遊びをしよう。 ・グループごとにイヌ歩き、ウマ歩き、ワニ歩き、しゃくとりむし、うさぎ跳び、かえるの足打ち、ゆりかご、ブリッジをする。	□準備がうまくできていない児童を指導しながら、場の準備についての知識を見取る。 ○BGMを流しながら、一つ一つの動きを丁寧に行うよう助言する。 □首、手首、腰、膝関節等のほぐしに留意する。
展開 8分	●ころころランドで楽しもう。 めあて：ころころランドでいろいろな転がり方をして楽しもう	○本時のめあてを示す
5分	・基本となる転がり方をして遊ぶ。 前転がり 後ろ転がり だるま転がり 丸太転がり	○基本となる転がり方を紹介し、一人ずつ順番に行うようにする。 ◆マットを使った運動遊びの行い方について言ったり、実際に動いてみたりしている。
5分	・工夫した転がり方をして遊ぶ。 忍者転がり 手つなぎ転がり ○○転がり（自由なネーミングで）	□うまく転がっていない児童に行い方を助言しながら、知識の有無を見取る。
5分	・マットの形を変えて遊ぶ。 坂道マット ジグザグマット 正方形マット でこぼこマット	○児童からのアイデアを拾いながら、転がり方のバリエーションを広げるようにする。 □前後の間隔や安全な転がり方に留意する。
5分	●どんな転がり方ができたか紹介しよう。 ・○○さんは手を着いた前転がりと、手を着かない前転がりをしていた。 ・いろいろな転がり方を組み合わせて回っていた。	○児童の「楽しそう」「やりたい」を引き出し、マットの配置を変えたり、踏切板やボールなどを用いて傾斜や起伏を付けたりする。 ○自分や友達の楽しい転がり方を紹介し合えるようにする。
10分	●いろいろな転がり方をしてさらに楽しもう。 ・友達の行い方を真似て、いろいろな場で転がって遊ぶ。	□工夫した楽しい転がり方を紹介する。
整理 3分	●学習を振り返ろう。 ・自分の活動の振り返りをする。 ・今日のキラ星さんを発表する。	○学習カードをもとに、振り返るようにする □友達の動きのよいところを認め合えるように言葉がけをする。
2分	●場の片付けをしよう。 ・役割に合わせて、場の片付けをする。	○友達と協力して安全に片付けるようにする ◆場の片付けを友達と一緒にしようとしている。

3. 単元の評価規準に即した児童の具体的な姿及び評価方法の例

(1) 知識・技能

単元の評価規準	児童の具体的な姿の例及び評価方法の例
① マットを使った運動遊びの行い方について言ったり, 実際に動いてみたりしている。	・ マット遊びで行っているいろいろな遊び方の特徴を言ったり書き出したりしている。(観察・カード) ・ マットの上でのいろいろな遊び方をしようとしている。(観察)
② マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。	・ 前転がり, 後ろ転がり, だるま転がり, 丸太転がりなどいろいろな転がり方を試し, 遊んでいる。(観察)
③ 手や背中で支えて逆立ちをしたり, 体を反らせたりして遊ぶことができる。	・ 背支持倒立, 壁登り倒立, 補助倒立などいろいろな倒立の行い方を試し, 遊んでいる。(観察) ・ 仰向けや倒立からのブリッジを試し, 遊んでいる。(観察)

(2) 思考・判断・表現

単元の評価規準	児童の具体的な姿の例及び評価方法の例
① 坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることができるような場を選んでいく。	・ 坂道やジグザグなどのコースの特徴に応じて, いろいろな転がり方を選び, 遊んでいる。(観察・カード) ・ 自分のしたい転がり方が行いやすい場を選び, 遊んでいる。(観察・カード)
② 腕で支えながら移動したり, 逆さまになったりする動きを選んでいく。	・ アザラシ歩きなど動物の真似をした動きや, アンテナやブリッジなど建造物をイメージした動きのうち, 自分がしたい動きを選び, 遊んでいる。(観察・カード)
③ 友達のよい動きを見付けたり, 自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書き出したりしている。	・ 友達の動きを見て, 楽しいところや工夫しているところなどを友達や教師に伝えている。(観察) ・ 自分の動きやグループでの遊び方で工夫したことを言ったり書き出したりしている。(観察・カード)

(3) 主体的に学習に取り組む態度

単元の評価規準	児童の具体的な姿の例及び評価方法の例
① 動物の真似をして腕で支えながら移動したり, 転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。	・ アザラシ歩き, クマ歩き, ウサギ跳び, カエル跳びなど, 動物などの真似をした遊び方を試したり, 前転がりや後ろ転がりなどの転がり方を試したりしている。(観察) ・ いろいろな運動遊びに繰り返し取り組んでいる。(観察)
② 順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。	・ 自分の順番を守り, 遊んでいる。(観察) ・ 遊び方の約束を守り, 回ったり跳んだりしている。(観察) ・ グループの友達と仲よくマット遊びをしている。(観察)
③ 場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。	・ 友達と協力してマットや用具の準備や片付けをしたり, 声をかけ合って平均台を運んだりしている。(観察)
④ 場の安全に気を付けている。	・ マットのずれを見逃さずに整えたり, 危険な回り方をしないようにしたりしている。(観察)

4. 単元の評価規準を基にした「十分満足できる姿」の設定例

(1) 知識・技能

単元の評価規準	「十分満足できる姿」の設定例
① マットを使った運動遊びの行い方について言ったり、実際に動いてみたりしている。	・運動遊びの行い方の 留意点 を友達や教師に 詳しく 伝えたりカードに書いたりすることができる。
② マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。	・いろいろな転がり方を 連続して 行うことができる。(何度も繰り返すことができる)
③ 手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりして遊ぶことができる。	・いろいろな倒立やブリッジを行うことができる。(いろいろな種類の動きができる)

- ・知識においては、運動遊びの行い方をより詳しく言ったり書き出したりしている姿や、実際に正確に行っている姿で見取ることが想定される。
- ・技能においては、連続してできる、滑らかにできる、安定してできるなど、よりよくできる姿で見取ることが想定される。

(2) 思考・判断・表現

単元の評価規準	「十分満足できる姿」の設定例
① 坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることのできるような場を選んでいく。	・コースの特徴に応じた動きには どんなことがあるかを考え、試行錯誤しながら試している。 ・動きに合わせてコースの形などを改良している。
② 腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを選んでいく。	・動物などの動きの特徴や建造物の特色を踏まえ、自分の動きをよりよくする 行い方 を選んでいく。
③ 友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書き出したりしている。	・友達のよい動きの特徴を、 擬態語や身振りなど多様な表現を用いて具体的に 伝えたり、書き出したりしている。

- ・思考・判断においては、設定された活動をもとに、自分なりにさらに工夫しようとしていることが行動や言葉として表出される姿で見取ることが想定される。
- ・表現においては、友達のよい動きや自分が工夫した動きを、言葉や動作、身振りなど多様な表現方法を用いて友達や教師に伝えたり、カードに書き出したりする姿で見取ることが想定される。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

単元の評価規準	「十分満足できる姿」の設定例
① 動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。	・動物などの真似をした遊び方や前転がり、後ろ転がりなどの転がり方に バリエーション を付けて試している。
② 順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。	・自分が楽しむだけでなく、 グループの友達を励ましたり、応援したり している。
③ 場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。	・場の準備や片付けを 率先して 行っている。
④ 場の安全に気を付けている。	・自分のことだけでなく、 周囲の安全にも 気を配っている。

- ・愛好的な態度においては、課題の解決に向けて、意欲的に取り組もうとしている姿で見取ることが想定される。

- ・公正や協力に関する態度においては、公平・公正な態度と友達をよりよく支えようとしている姿で見取ることが想定される。
- ・責任や参画に関する態度においては、グループでの活動等で生じる自分の役割を十分に果たそうとしている姿で見取ることが想定される。
- ・共生に関する態度においては、自分と課題の解決が異なる場合においても、違いを認め、自分事として引き取ろうとしている姿で見取ることが想定される。(低学年においては評価の内容に示されていない)
- ・健康・安全に関する態度においては、自分の安全だけでなく、友達の安全の確保にも留意し、行動する姿で見取ることが想定される。

5. 毎時間の観点別評価の進め方

(1) 指導と評価の重点化

毎時間の指導においては、単元目標を踏まえ、育成を目指す資質・能力の三つの柱（以下、「三つの指導」と表す）に基づき目標を設定するが、全ての児童に全てのことを指導し評価することは現実的ではない。三つの指導に留意しつつも、本時において重点的に指導する内容（以下、「重点内容」と表す）を絞り、指導することが想定される。その際、重点内容の指導と同時間内に評価を行う場合があるが、技能や主体的態度のように、習得や活用の段階等を踏まえ一定期間を置くなど、指導と評価の時期をずらして評価を行う場合も考えられる。したがって、重点内容と本時の評価の観点が必ずしも一致するものではないことに留意する必要がある。

(2) 評価後の指導の継続と再評価の重要性

ある児童において、単元の前半に評価の機会を設定した項目において B または C であったものを、単元の終盤までに A または B となるよう指導の充実を図ることが本来の評価の在り方であることから、単元の前半に評価したことをもってその観点の評価を確定することには留意が必要である。指導したことがどの程度身に付いているかを評価することは、単元の途中や終盤等において指導方針の修正を図るうえで極めて重要である。つまり、単元の目標を踏まえて評価規準を作成し、評価の観点を明確にしたうえで指導に当たることにより、指導内容が一層明確になると考えることができる。

(3) 指導と評価の計画の柔軟な運用

評価のための指導にならないようにすることは言うまでもないことであるが、育成を目指す児童の姿を評価項目の視点から想起し、指導の充実につなげることは、授業改善を図るうえで重要である。指導と評価の計画は、育成を目指す資質・能力と指導内容及び評価の具現化を図ることに資するものであるため、児童の実態等に応じて、適宜修正を加えながら柔軟に作成することが大切である。

6. 総括的評価の考え方

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	総括
知		①→B	②→B	③→A		②→A	A
思			③→B		①→A	②→B	B
態	④→B	③→A		①→B	②→A		A

- ・各観点における単元の評価規準を2つ設定した場合、AA→A、AB→A又はB、BB→B、BC→B又はC、CC→Cとなることが想定される。なお、A又はB及びB又はCとなる場合の扱いは、学年又は学校として統一しておくことが重要である。(以下同様)
- ・各観点における単元の評価規準を3つ設定した場合、AAA・AAB→A、ABB・BBB・BBC→B、BCC・CCC→Cとなることが想定される。

- ・各観点における単元の評価規準を4つ設定した場合、AAAA・AAAB→A、AABB→A又はB、ABBB・BBBB・BBBC→B、BBCC→B又はC、BBBB・CCCC→Cとなることが想定される。
- ・同一の観点において、AとCが混在することは想定していない。例えば「知識・技能」において、知識はCだが技能はAといった評価は、技能の見取りを確かとするならば知識の見取りが不確かであると想定されるため、知識の評価を再考することが検討される。また「思考・判断・表現」において、思考・判断はAだが表現はC（又はその逆）となった場合には、それぞれの見取りが不確かであると言わざるを得ない。さらに「主体的に学習に取り組む態度」においても、愛好的態度がCであっても、友達と助け合う姿がAなどということ（又はその逆）は考えられず、CまたはAとなった観点の見取りを再考することが想定される。
- ・育成を目指す資質・能力の3つの柱は、目指す児童の姿とそのための指導の在り方が相互に関連しているため、総括的評価の際に3観点にAとCが混在することについても、十分に留意することが求められる。例えば、「知識・技能」がAであるような児童で、「思考・判断・表現」又は「主体的に学習に取り組む態度」がCということは、殆どの場合においては想定されない。「知識・技能」が十分満足できる状況であれば、「思考・判断・表現」の様子が見取れたり、「主体的に学習に取り組む態度」が概ね以上に身に付いていたりすることが想定されるためである。しかし、児童の学習状況等によっては、必ずしもそうはならない場合があることも考えられるため、十分に留意することとしている。

小学校体育科（保健領域） 事例 1

キーワード 「指導と評価の計画から評価の総括まで」

単元名

体の発育・発達

内容のまとめり

第4学年（2）体の発育・発達

1 単元の目標

- (1) 年齢に伴う体の変化と個人差，思春期の体の変化，体をよりよく発育・発達させるための生活について理解することができるようにする。 【知識】
- (2) 体の発育・発達について，課題を見付け，その解決に向けて考え，それを表現することができるようにする。 【思考力，判断力，表現力等】
- (3) 体の発育・発達について，健康の大切さに気付き，自己の健康の保持増進に進んで取り組むことができるようにする。 【学びに向かう力，人間性等】

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 身長や体重など年齢に伴う体の変化と個人差について，理解したことを言ったり，書いたりしている。 ② 思春期には，体つきに変化が起こり，人によって違いがあるものの男女の特徴が現れることや初経，精通，変声，発毛が起こることなどについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。 ③ 体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には，体の発育・発達によい運動，バランスのとれた食事，適切な休養及び睡眠などが必要であることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。	① 体の発育・発達について，身長や体重などの年齢に伴う体の変化や思春期の体の変化，体の発育・発達に関わる生活の仕方から課題を見付けている。 ② 体の発育・発達について，自己の生活と比べたり，関連付けたりするなどして，体をよりよく発育・発達させるための方法を考えているとともに，考えたことをワークシートなどに書いたり，発表したりして友達に伝えている。	① 体の発育・発達について，課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習や教科書や資料などを調べたり，自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（4時間）

*…主に全員の学習状況を記録に残す

時間	ねらい・学習活動	知	思	態	評価規準・評価方法
1	【ねらい】 ○ 身長、体重など年齢に伴う体の変化と個人差について、理解できるようにする。 1 「体の変化」からイメージすることを出し合い、体や心に変化があることに気付く。 2 教科書や資料から、4人の身長の伸びを比べ、気付いたことを発表する。 3 身長や体重などは年齢に伴って変化すること、体の変化には個人差があることを理解する。 4 身長の伸びについて考えている児童の事例を用い、学習したことを生かしてアドバイスをする。	①			【知識①】 身長や体重など年齢に伴う体の変化と個人差について、理解したことを言ったり、書いたりしている状況を 【観察・ワークシート】 で捉える。
2	【ねらい】 ○ 体の発育・発達について、思春期の体の変化から課題を見付けることができるようにする。 1 「声当てクイズ」、「シルエットクイズ」に取り組み、変声や男女の体つきの変化に気付く。 2 グループで、体つきの変化について考え、ベン図（男・女・共通）を用いて分類しながら話し合う。 3 思春期には、体つきに変化が起こること、人によって違いがあるものの男女の体つきの特徴が現れることを理解する。 4 思春期の体つきの変化について考えている児童の事例を用い、学習したことを生かしてアドバイスをする。		①		【思考・判断・表現①】 体の発育・発達について、身長や体重などの年齢に伴う体の変化や思春期の体の変化、体の発育・発達に関わる生活の仕方から課題を見付けている状況を 【観察・ワークシート】 で捉える。
3	【ねらい】 ○ 思春期には、初経、精通、変声、発毛が起こることなどについて、理解できるようにするとともに、体をよりよく発育・発達させるための方法を考え、発表することができるようにする。 1 教師の話から、思春期には初経、精通など体の変化が起こることを知る。 2 初経、精通、変声、発毛について、教科書や資料を基に調べ、気付いたことを発表する。 3 思春期には、初経、精通、変声、発毛が起こること、異性への関心も芽生えること、これらは、個人差があるものの、大人の体に近づく現象であることを理解する。 4 思春期の体の変化について心配している児童の事例を用い、学習したことを生かしてアドバイスをする。	②	②	*	【知識②】 思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの男女の特徴が現れることや初経、精通、変声、発毛が起こることなどについて、理解したことを言ったり、書いたりしている状況を 【観察・ワークシート】 で捉える。 【思考・判断・表現②】 体の発育・発達について、自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして、体をよりよく発育・発達させるための方法を考えているとともに、考えたことをワークシートなどに書いたり、発表したりして友達に伝えている状況を 【観察・ワークシート】 で捉える。
4	【ねらい】 ○ 学習に進んで取り組むとともに、体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、体の発育・発達による運動、バランスのとれた食事、適切な休養及び睡眠などが必要であることを理解できるようにする。 1 体をよりよく成長させるために必要だと思うことを出し合う。 2 出た意見をYチャートで3つ（運動、食事、休養・睡眠）に分類する。 3 どのような生活をすれば、体をよりよく発育・発達できるかをグループで話し合う。 4 体の発育・発達による運動、多くの種類の食品をとることができるようなバランスのとれた食事、適切な休養及び睡眠が必要であることを理解する。 5 これまでの自分の生活を振り返り、自分の目標を決める。	③	*	①	【知識③】 体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、体の発育・発達による運動、バランスのとれた食事、適切な休養及び睡眠などが必要であることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている状況を 【観察・ワークシート】 で捉える。 【主体的に学習に取り組む態度①】 体の発育・発達について、課題の解決に向けての話合いや発表などの学習や教科書や資料などを調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組もうとしている状況を 【観察】 で捉える。

※「主体的に学習に取り組む態度」については、単元全体で評価していくため破線で示している。

※「知識・技能」、「思考・判断・表現」については、各授業後や単元終了後にワークシートやノートの記載等からも評価することで評価の信頼性を高めることができる。

4 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 児童の学習改善につなげる評価

保健の学習は、小学校第3学年から高等学校まで継続的に行われる学習である。小学校段階から、保健の学習内容に関心をもてるようにするとともに、健康に関する課題を解決する学習を積極的に行うなどの指導方法を工夫・改善することで、資質・能力をバランスよく育み、心身の健康を保持増進することができる。

こうした資質・能力を育成する上で、評価は重要となる。保健の学習の評価活動は、大きく分けると、以下の3つの局面が考えられる。

- ①児童が、保健に関する知識や関心をどの程度もっているのかを見取るとともに、児童の発達の段階や態度、発言、行動などから、学習内容の重点等を鑑み、授業の計画を立てる局面（診断的評価）。
- ②単元の保健の学習の中で、児童がどのように変容しつつあるのかを見て取り、次なる課題を提示したり、指導の在り方の修正を考えたりする局面（形成的評価）。
- ③保健の学習が目標に対してどの程度まで達成できたのかを、児童の学習状況から見て取る局面（総括的評価）。

この中の形成的評価は、教師の指導改善、児童の学習改善につながる評価となる。形成的評価は、単元の中で繰り返し実施していくことが求められる。これは、学習評価を成績付け等の総括的な評価のみにとどまらせることなく、形成的な評価を実施する中で、児童の学習改善、教師の指導改善につながるようにしていくためである。このような評価を実施していく上で、以下の点に留意していく。

- ・本時のねらいを明確に示し、学習の見通しをもたせること
- ・観点ごとの評価場面を意図的・計画的に設定すること
- ・多様な評価方法を用いること
- ・教師によって評価の方針が変わることがないように、指導と評価の一体化をより一層推進すること
- ・評価の必要性・妥当性に配慮し学校全体で共有していくこと
- ・記録を集めることに終始して、学期末や学年末になるまで必要な指導や支援を行わないまま一方的に評価をするようなことがないようにすること

(2) 指導と評価の一体化

「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹に当たり、これらを一体化することが授業改善につながる。すなわち、教師自らがねらいに応じて指導したことを適切に評価するとともに、(1)で説明したように評価したことを指導の改善に生かしていくのである。そのことを踏まえて、保健の学習においても「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して資質・能力を確実に育成していくことが大切となる。

本単元では、子供たち一人一人が、保健の学習への興味・関心を高め、楽しく取り組める授業づくりとして、既存の知識からイメージを広げさせていくことやクイズ形式の導入を活用し、学習に取り組ませていく。

健康に関する課題を解決する学習では、既存の知識や習得した知識を基にグループや個人での話し合いやグループ活動、思考ツール（ベン図・Yチャート等）を活用した学習を展開することで、健

課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習の充実を図っている。

こうした指導を展開する中で、本単元の「単元の評価規準」を設定しており、各観点の評価規準は「おおむね満足できる」状況を表したものである。「おおむね満足できる」状況については、児童の学習する姿をある程度想定し、具体的に示すことが必要となる。評価の際は、「おおむね満足できる」状況を基に、質的な高まりや深まりをもっていると判断できれば「十分満足できる」状況、達していなければ「努力を要する」状況となることを判断する。

この時、大切なことは、評価規準である「おおむね満足できる」状況に達していない場合、その状況に達するように、その後の指導や支援を工夫することが必要である。新たな発問を加える、具体例で考えさせる、一例を挙げさせてみる、友達と意見を交流させてみるなど、それぞれの場面に応じた工夫が求められる。さらに、評価の重点には示してはいたなくとも、「努力を要する」状況と判断した児童については、追ってその状況を観察していくことが考えられる。

児童が「おおむね満足できる」学習の実現状況に達している場合は、さらに「十分満足できる」状況を目指して、指導や支援の工夫をしていくことになるが、「十分満足できる」状況と判断できる児童の姿は多様に想定されることに留意する。

(3) 基本的な考え方

評価の機会を設定する際には、資質・能力を育成する上で、評価する観点を明確に示すとともに必要以上に評価機会を設け、評価資料の収集・分析に多大な時間を要していないかを確認するなど、効果的・効率的な学習評価を実施することに留意する必要がある。事例では、単元の評価を、効果的・効率的に進めるために、3観点の評価を重点化し、1時間の評価の観点を多くとも2観点としている。また、主に全員の学習状況を記録に残す評価については、1時間に多くの評価となることがないように精選している。そのため、「知識・技能」については、これまでの「知識・理解」では毎時間の評価を行っていたものをねらいに基づいて精選し評価をすることとした。また、「主体的に学習に取り組む態度」は、最後の時間に総括として評価することとした。

各観点については次のとおりである。

「知識・技能」の評価については、児童の発言を観察から評価するとともに、1時間の学習の軌跡として、ワークシートなどから評価していくことが考えられる。なお、第4時では単元の総括として、全員の学習状況を記録として残すようにしている。この際、これまでの学習状況の定着と合わせて、ペーパーテストを活用することも一つの方法として考えられる。

「思考・判断・表現」の評価については、第2時では、既存の知識や気付きを基に、課題を発見する「思考・判断」について観察やワークシートから評価する。第3時では、自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして、体をよりよく発育・発達させるための方法を考える「思考・判断」及び学習を通して考えたことを友達と伝え合う「表現」について観察やワークシートから評価している。なお、「思考・判断・表現」を評価する際には、ワークシートの記載内容のみで評価すると「知識」の評価と混同してしまう懸念があることに配慮する必要がある。「思考・判断」を評価する際は、なぜそう考えたのか理由を問う欄や自己の生活と比べたり関連付けたりする設問を設定するなどワークシートを工夫することが考えられる。また、「表現」を評価する際には、「知識」として得た内容をどのように「思考・判断」したのかを、発表やグループでの話し合い等において友達などへ伝えている姿から観察で判断していくことが考えられる。また、ポートフォリオを活用するなど評価方法を工夫することも考えられる。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価する必要がある。その際、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとしている側面」の二つの側面を評価することが求められる。「粘り強い取組を行おうとする側面」では、例えば第1時では、身長や体重などの年齢に伴う体の変化について、グラフや教科書、資料などから進んで読み取ろうとしている態度を評価していくことが考えられる。「自らの学習を調整しようとする側面」では、例えば第4時では、体をよりよく発育・発達させるために、よりよい生活の仕方について改善策を考えようとする際に、自己のこれまでの生活と比較するなどの態度を評価していくことが考えられる。いずれの側面も、知識及び技能を習得させたり、思考力、判断力、表現力等を育成したりする場面に関わって評価していく。「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、育成に時間がかかる点に留意し、1時間ごとの画一的な評価ではなく、単元を通して見取っていくことが重要となる。本単元では、第4時に記録を残す評価として設定しているが、これは総括的な評価として単元全体を通して評価することを示している。

(4) 観点別学習状況の評価の実際

各観点における児童の学習状況については、具体的にその状況を捉え、その学習状況にある背景と指導の方向を考えていくこと大切である。本単元では、評価の信頼性を高めるために、各観点の評価に係る「おおむね満足できる」状況とその評価方法を指導と評価の計画に示している。また、学習評価を次の指導や支援に積極的に生かすことができるように、各観点の評価について、「十分満足できる」状況にあると判断するポイント、「努力を要する」状況と判断した児童への手立ての例を以下に示した。

①「知識・技能」の例

単元の評価規準 ① 第1時
身長や体重など年齢に伴う体の変化と個人差について、理解したことを言ったり、書いたりしている。
第1時では、年齢に伴う体の変化についてまとめる場面や学習したことを生かしてアドバイスする場面において、身長や体重など年齢に伴う体の変化と個人差について、理解したことをワークシートの記載や発言内容から判断していく。
「十分満足できる」状況にあると判断するポイント
・身長や体重など年齢に伴う体の変化と個人差について、理解したことに加え、グラフから読み取ったことや自分の生活から気付いたことなどを言ったり、書いたりしている。
「努力を要する」状況と判断した児童への手立て
・体の年齢に伴う変化や個人差についての学習内容が定着していないことが考えられるため、身近な事例を示したり、必要に応じて学習を振り返らせたりするなど、個別に説明する。

単元の評価規準 ② 第3時
思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの男女の特徴が現れることや初経、精通、変声、発毛が起こることなどについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。
第3時では、思春期の体の変化についてまとめる場面や学習したことを生かしてアドバイスする場面において、思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの男女の特徴が現れることや初経、精通、変声、発毛が起こることなどについて、理解したことをワークシートの記載や発言内容から判断していく。
「十分満足できる」状況にあると判断するポイント
・思春期の体の変化について、理解したことに加え、家族との生活や自分の生活の中から気付いたことなどの具体例を挙げて言ったり書いたりしている。
「努力を要する」状況と判断した児童への手立て
・思春期の体の変化についての学習内容が定着していないことが考えられるため、クイズの内容やベン図での分類内容を個別に振り返らせたり、教科書や資料等で具体的に説明したりする。

単元の評価規準 ③ 第4時
体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、体の発育・発達により運動、バランスのとれた食事、適切な休養及び睡眠などが必要であることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。 第4時では、体をよりよく発育・発達させるための生活についてまとめる場面や学習したことを生かして自分の目標を決める場面において、体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、体の発育・発達により運動、バランスのとれた食事、適切な休養及び睡眠などが必要であることについて、理解したことをワークシートの記載や発言内容から判断していく。 「十分満足できる」状況にあると判断するポイント ・体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方について理解したことに加え、運動、食事、休養・睡眠の改善策を自分の生活と結び付けながら具体例を挙げて言ったり書いたりしている。 「努力を要する」状況と判断した児童への手立て ・体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方についての学習内容が定着していないことが考えられるため、運動、食事、休養・睡眠それぞれの内容ごとに大切なポイントを個別に振り返らせる。

②「思考・判断・表現」の例

単元の評価規準 ① 第2時
体の発育・発達について、身長や体重などの年齢に伴う体の変化や思春期の体の変化、体の発育・発達に関わる生活の仕方から課題を見付けている。 第2時では、思春期の体の変化について、教科書等を参考にして課題を見付ける場面で、「声当てクイズ」、「シルエットクイズ」の取組やベン図での分類の様子、ワークシートの記載内容から判断していく。 「十分満足できる」状況にあると判断するポイント ・具体的な事例や事実に基づいたり、自己の体の発育・発達に結び付けたりしながら理由を明確にして、課題を見付けている。 「努力を要する」状況と判断した児童への手立て ・課題を見付けられないことが考えられるため、自分の身長や体重などの年齢に伴う変化や生活の仕方を振り返らせ、課題に気付けるように促す。

単元の評価規準 ② 第3時
体の発育・発達について、自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして、体をよりよく発育・発達させるための方法を考えているとともに、考えたことをワークシートなどに書いたり、発表したりして友達に伝えている。 第3時では、思春期の体の変化について心配している友達にアドバイスを送る場面で、理解したことに基づき考えたアドバイスについて、ワークシートへの記載内容や友達などへの発表内容から判断していく。 「十分満足できる」状況にあると判断するポイント ・自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして、解決方法を考えると同時に、その解決方法の根拠を明らかにして友達に伝えている。 「努力を要する」状況と判断した児童への手立て ・解決方法が分からないことや学習内容と自己の生活を結び付けられていないことが考えられるため、教科書や資料から読み取れることを個別に説明したり、具体的な生活場面を想起させたりすることで自己の生活と比べさせたり、関連付けたりさせる。

③「主体的に学習に取り組む態度」の例

単元の評価規準 ① 第4時
体の発育・発達について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習や教科書や資料などを調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組もうとしている。 第4時では、第3時までの学習を踏まえ、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習や教科書や資料などを調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組もうとしている状況を観察し、判断していく。 「十分満足できる」状況にあると判断するポイント ・1時間目からの学習を生かしながら、話し合いや発表などの学習、教科書や資料などを調べたり自分の生活を振り返ったりするなどの学習に自ら進んで取り組んでいる。 「努力を要する」状況と判断した児童への手立て ・目標を立てる場面で、既習事項と結び付けず自分の生活を振り返られきれていない場合が考えられるため、運動、食事、休養・睡眠について、一つ一つ丁寧に確認させる。

5 観点別学習状況の評価の総括

(1) 評価結果のA, B, Cの数を基に総括する。

本単元では、単元の評価規準に照らし、「十分満足できる」状況（A）、「おおむね満足できる」状況（B）、「努力を要する」状況（C）により評価を行い、Aが半数を超える場合にはA、Cが半数を超える場合にはC、それ以外はBとする考え方に立って総括を行った。また、AとCが同一観点到に混在する場合は、Bに置き換えて集約している。

事例では、第2時の「思考・判断・表現」で（C）と評価しているが、「(2) 指導と評価の一体化」で示したように、「おおむね満足できる」状況に達していない場合は、その後の指導や支援を工夫していく必要がある。第3時では、その後の経過を見取り、児童の学習状況が「おおむね満足できる」状況にあると判断できたため（B）の評価を追記している。こうした指導と評価が、児童の学習改善、教師の指導改善へとつながっていくものであると考える。

「主体的に学習に取り組む態度」については、知識及び技能を習得させたり、思考力、判断力、表現力等を育成したりする場面に関わって評価するものであり、他の二つの観点到との関連に留意する必要がある。また本事例では、単元を通して評価することとしているため、第1時から第3時での児童の学習状況の変容を踏まえ、第4時の記録を単元の総括として評価することとした。

	観 点	単元の評価規準	第1時	第2時	第3時	第4時	単元の総括
氏 名	知識・技能	身長や体重など年齢に伴う体の変化と個人差について、理解したことを言ったり、書いたりしている。	C	—	—	—	B
		思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの男女の特徴が現れることや初経、精通、変声、発毛が起こることなどについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。	—	B	—	—	
		体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、体の発育・発達によい運動、バランスのとれた食事、適切な休養及び睡眠などが必要であることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。	—	—	—	A	
	思考・判断・表現	体の発育・発達について、身長や体重などの年齢に伴う体の変化や思春期の体の変化、体の発育・発達に関わる生活の仕方から課題を見付けている。	—	C	— (B)	—	B
		体の発育・発達について、自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして、体をよりよく発育・発達させるための方法を考えているとともに、考えたことをワークシートなどに書いたり、発表したりして友達に伝えている。	—	—	B	—	
	主体的に学習に取り組む態度	体の発育・発達について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習や教科書や資料などを調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組もうとしている。	—	—	—	B	B

※表内の「—」印は、基本的にはその時間での記録に残す評価を行わない。

(2) 評価結果の A, B, C を数値に置き換えて総括する。

評価結果 A, B, C を, $A=3$, $B=2$, $C=1$ によって表して, 合計したり, 平均したりする総括の方法である。総括の結果を B とする範囲を $[2.5 \geq \text{平均値} \geq 1.5]$ とすると, 平均値が 2.5 を上回る場合は A, 平均値が 1.5 を下回る場合は C となる。今回の「知識・技能」では, 「C B A」となり, 平均値は $[(1+2+3) \div 3] = 2$ で総括の結果は B となる。

	観点	第 1 時	第 2 時	第 3 時	第 4 時	平均	単元の総括
氏 名	知識・技能	1	2	—	3	2	B
	思考・判断・表現	—	1	2	—	1.5	B
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—	2	2	B